

あけましておめでとうございます。いろいろと問題をかかえている社会ですが、新しい年を迎えるのはいいものです。新しいページ、新しい自分とむきあう時です。アメニティ 2000 協会の新しい一年もどうぞよろしくお祈りいたします。アメニティ便りも新しい企画を始めました。「お薦めの本」と「連載」です。また創立 10 周年記念事業を振り返る記事を掲載しました。

お知らせ

- ・新年会 1月10日(月・祝)
- ・歴史的建築物研究会再調査 1月22日(土) 神戸市舞子、塩屋地区
- ・タイ交流旅行 2月6日(日)~10日(木)~12日(土)
- ・歴史的建築物研究会再調査 2月19日(土)
- ・島の音楽会スペシャルコンサート~うた 島めぐり 2月26日
- ・町並み研究会 3月18日(金)~19日(土) 天神崎

予告1 <会員限定>

歴史的建築物研究会再調査 ~ 舞子、塩屋を訪ねます

1月の再調査は神戸市の舞子と塩屋を訪ねます。明治以降富裕な人々が好んで住んだ地域で、そうした邸が海に見える高台のあちこちに残っています。特に旧ジェームス邸は阪神間屈指の洋館で、今回は内部見学もできる予定です。どうぞご参加ください。

月日 2011年1月22日(土) 午前10時~

訪問先 移情閣、旧武藤山治邸、旧木下邸、旧グッゲンハイム邸、旧ジェームス邸

昼食 舞子ピラ

参加費 2,000円(会員限定・昼食代は別途各自負担)

詳しくは同封の案内チラシをごらんください。

ご報告1 町並み研究会+歴史的建築物研究会 12月11日(土) 神戸大学とその周辺地域

野村理栄子神戸大学講師の案内を得て、旧神戸商業大学の施設として昭和初期の建築をまわりました。特に卒業生もはいつたことのない貴賓室にも案内されて、一同感激しました。数寄屋造りの山口誓子記念館をはじめ、ロイ・スミス館、住友ゴムの篠原寮では心づくしのお茶をいただき、満足の日でした。参加者 27名



【コラム】

母の訓示

清水 彬久

私の母は101歳で健在である。昨年大病をして体は不自由となり施設に入ったが、いたって頭脳明晰で「いつからこんなに喋るようになったか」と不思議そうに言いつつ滑らかに絶えまなく話す。「息子だけは厳しく育ててきたのに、云々」「六甲山荘のアジサイはきれかったけど枯らしたらあかんよ」「アメニティのことはよく分からんけど、始めてから10年経って、よくやってきたけど皆さんのお陰であることを忘れないようにしなさい」「あんたもいい年になったんやから体には気をつけるのよ」という調子で、こちらは合間に「ふんふん」とうなずくだけである。また施設に見舞った時、スタッフからは「お母さんから六甲山荘のことをお聞きしています」という話しがでてくる。どうも息子のすることが万事気になるらしい。それは、励ましと心配の交叉する親の変わらぬ気持ちから発してのことであろう。

そんな母が毎年アメニティ・レポートの会員の声に興味の俳句を投句してくれている。

「余生はいつからのこと初日記」

「凍星へひびけ追悼コンサート」

「ぬぐひ得ぬ一憂まとひ更衣」

「主亡き豪邸遺り春惜しむ」

「人住まぬ重文屋敷部屋余寒」

「朝霧の晴残したる山桜」

「木下閣白き館へ車椅子」

「あぢさゐの嶺の見頃の濃く淡く」

「かぐはしき緑の風の部屋いくつ」

「六甲嶺老に若きに山笑ふ」

「山荘に初音を聞かん今年また」

「六甲に樹氷咲きしとさわぎおり」

正月には家族で会いに行くが、「色々なことがあるかもしれんけど気を引き締めてしっかりやるのよ」という母の訓示をうけることになるだろう。そして、その年賀の言葉に襟を正して聞こうと思う。

皆さん本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

島の音楽会スペシャルコンサート～うた 島めぐり

先日もご案内しましたが、当協会理事でアンサンブル・アメリ
ティの代表でもある畑儀文さんが中心となって企画された「島の
音楽会スペシャルコンサート」が次のように開催されます。

日時 2011年2月26日(土)午後1時半

場所 兵庫県立芸術文化センター 大ホール

入場料 2,000円

畑儀文さんは生徒数の少ない離島の子供たちにみんなで声
を合わせる合唱の楽しさを教えたいと指導してられました。
その子供たちが集まって歌うコンサートです。協会からは助成
金を送り、後援もしています。

島の子供たちが心と声をあわせる歌声を聴きにいきませんか。
チラシを同封しましたので、チケットご希望の方はご連絡くだ
さい。



タイ・チェンマイYMCAからのグリーティングカード

連載

私たちの先駆者(第1回:初めに)

清水 彬久

当協会は昨年創立10周年を迎えることができ、新たなステージに入ったといえます。この時期に原点に立ち帰り、設
立趣旨に掲げていますナショナル・トラスト運動について再考する機会を持つことも意義のあることのように思います。

この運動は、英国ヴィクトリア王朝時代の19世紀末に起こりますが、その時代背景にあった環境軽視の社会に自問し解
決の糸口がどこにあるかを模索しながら切り開いていった多くの人々の働きによって生まれたものです。その灯は長い年月
をかけながら実を結んでいくこととなります。そして、この運動は戦後の1960年代になって日本に紹介されることにな
ります。当時経済成長の途上にありました日本では、全国において環境破壊が進み、「このままではだめだ」という呻き声
が起こってきます。これは、一世紀前の英国ヴィクトリア王朝時代と同じ状況にあったと言えるでしょう。全国各地で、当初
は小さく非力ながら、その大きな流れを食い止めなければならないという強い決意が湧きあがっていく中で、この運動が大
きな役割を果たすこととなります。そこには、推進役を担った人物やそれを支えた仲間がおられました。私たちは、その人々
から何かを学び取っていくことが、今後の活動に対する重要な示唆が潜んでいるように感じられます。

その意味で、英国と日本における私たちの先駆者について逐次シリーズで紹介していきます。今回は、3月に町並み研究
会で、和歌山県の「天神崎の自然を大切に作る会」を訪問することにしていますが、地元の自然を守るためにこの運動を先
頭になって担った外山八郎氏を中心にしたお話を述べることにします。

お薦めの本 このページは会員の方に心に残っている本、最近面白かった本などを紹介していただくコーナーです。
リレー形式で次の筆者をご指名いただいて、つないでいきます。

梶木 蓬生 著 『国銅』

石川 玲子

奈良時代 聖武天皇は国の安寧を祈願して大仏建立の勅を発し、それによって何千もの人足が各地から集められた。今
の山口県、長門の銅山で働いていた17歳の国人(くにと)も仲間と共に役人に連れられ数ヶ月かけて徒歩と船を乗り継
ぎ奈良の都へ使役に出ることになった。初めて生まれ育った土地を離れ、道中や都で接する目新しい文化や暮らしぶりに
驚き、大仏建造工事の壮大さに目を見張る。予想の出来ない災害や病、不条理な死が日常であった時代に国人は厳しい現
実をありのままに受け止め、まっすぐな心で生きていこうとする。苦役という悲惨なだけの生活を連想しがちだが、
ここでは郷里の家族との再会を夢見ながら大仏建立という一大プロジェクトに気概や誇りを感じつつ過酷な労働に耐え
時には賭け事やお酒など小さな気晴らしもするという現代の庶民と等身大の人々の暮らしぶりが生き生きと描かれてい
る。そのような中で 薬草の知識や人生の真理を説く修行僧、障害を持ちながらも心で自由を楽しむ術を語る同僚、詩
の手ほどきをする衛士、悲田院で孤児のために献身する貧しい僧など 滋味溢れる人々との出会いと別れを経験し、国人
が人間として大きく成長していく様子には心を打たれる。それと同時に当時の銅の精錬法、大仏建造の工法、身分制度、
市井の人々の暮らしと食べ物などが丁寧に描かれ奈良時代の社会の実態を知る上でも興味深い本となっている。そして何
より主人公である国人の生き方から人間のすばらしさに気付かされ感動させられる。読み終えると 国人たちが精魂を込
め、命を掛けて造った大仏に会うためもう一度奈良へ行かずにはいられなくなるだろう。歴史ロマンであると同時に人間
賛歌の物語として爽やかな読後感が味わえる本である。

< 次回は廣田喜久子さんをお願いします >

2010年を振り返って

佐野 宣治

2010年(平成22年)は、アメニティ協会にとって特別な年である。協会は、2000年7月1日に会員17名で創立し、今年はその創立10周年の年に当たる。

2010年には、年の当初より、記念事業を予定しており、事業が精力的に計画されていた。それらは、アメニティ レポート 記念号の発行 記念コンサートの開催 神戸国際ワーキングホリデー 記念講演会な開催など々々、盛り沢山であった。六甲山荘の公開や、駒井家住宅の公開、町並み見学会や園遊会など通常の活動は、当然予定通り行っていく大変な「記念の年」のスタートであった。その記念事業を中心に此の1年を振り返ってみることにする。

アメニティ レポート2009年度 創立10周年記念号の出版

5月29日に出版されたが、全て手作りである。印刷は製版印刷機と家庭用プリンターのフル稼働。製本は、人海戦術。450冊を目標に日夜頑張ったボランティア会員は、延べ43名。印象としては、昔のアナログ映画で、裸電球のもと、夜なべをする「活版印刷屋さん」的光景である。この方法が今のところ一番経済的と役員は語る。

原稿は、多くの会員からの投稿と過去10年の歴史や町並み調査などの整理された資料で、読み応えのある内容となっているのは、既にお手元に郵送している冊子で、皆さんご存知の通り。

今後、お手元に届くインターネットや配送されるアメニティ関係書類は、多くのスタッフの手により作成され、多くのスタッフの手により配信されていることをご認識頂ければ、作る側サイドの励ましとなる。

10周年記念コンサートの開催

8月24日、兵庫県立芸術文化センター小ホール(神戸女学院ホール)に定員いっぱいの402名の参加を得て、アンサンブル・アメニティの第5回目の出演。テノール 畑義文、ヴァイオリン 赤松由夏、リュート&アーリーギター 高本一郎、ハープ 春木浩子の豪華メンバーであった。「アンコール、アンコール」の拍手が鳴り止まなかった。来場者の多くは、「コンサート、感動しました!」と言う声を残して、会場を去られた。しかし開催日まで、実行委員やスタッフが大いに悩んだ。

開催に当たっては、準備に1年間費やしたが、開催直前の8月初旬の実行委員会では、「チケットがまだ300枚の売れ行き」や、此の現状に皆がやきもきし「もっと頑張ろう」と気合を入れたものだ。その後チケットの売れ行きが急増し、今度はホールの定員を軽くオーバー。対応策をどうするかと心配が倍増した。立ち見席や、パイプ椅子席は会場の防災上、硬く禁止されている。そこで委員やスタッフは、場外で鑑賞。一般者を最優先とするなど対応を考えたが、世の中旨くしたもので、欠席者が見込み通り適度に有り、定員の400名一杯で盛会裏に終ることができた。此の素晴らしい演奏をスタッフたちは、モニターで確認したに留まる。

{コンサートの実行委員会からの報告はアメニティ便り10月号をご覧ください。}

神戸国際ワーキングホリデー(KIWH)の開催

9月1日から6日までの6日間、「労働をしながらの休日」を4カ国9人の参加者と委員及びボランティア会員が「下界の強烈な今年の暑さを忘れてヴォーリス六甲山荘で気持ち良く過ごした」と記したい。しかし、複数国の海外の人を迎え、寝食を共にするのは大変で、事前の委員会では、各国の習慣等が分からず「外国の人は公衆温泉(有馬温泉)は入れるのかな?」などと議論をしたものだ。参加者の気持ちの良い性格と大いなる協力で今となっては取り越し苦労であった。参加者は、台湾4人、韓国1人、イギリス1人、日本3人。内訳は女子6人、男子3人で海外に挑む女性の意気込みがなんとなく感じられた。

『ワーキング』では、山荘の窓枠のペンキ塗りや野点の席作り及び勝手口周りのスノコ張りであった。山荘へ行かれた時は、その成果を良く見ていただきたい。4カ国合同の力作である。

『ホリデー』では、スイカ割り、花火、浴衣で野点、六甲山の自然観察、有馬温泉入湯、神戸の夜景観賞など、また食事は野外で行い、うどん、おでん、カレー、お好み焼き、焼きそば、ピザ(これが大変であった)、かやくご飯、味噌汁、おにぎりなどスタッフ(延べ56人)が頭をひねりながら日本の慣習や、日本の食文化の紹介に努めた。参加者全員が配膳や後片付けを行い、全てのメニューに舌鼓を打ち、大変喜んでくれた。

夜は、各人が取り組んでいる研究発表があり、消灯は22時。宿泊最終日には、ヴォーリス設計の関西学院大学や神戸女学院を見学した。宿は由緒ある女学院のケンウッド館へ。

このようになんの問題も事故も無く、笑顔で各国にお送りできたことは、大変嬉しい限り。アメニティと海外の若い人との繋がりが、今後育ってくれるものと期待したい。

{石窯の製作については「六甲山荘だより」をご覧ください。}

特別記念講演会

10月9日、関西学院中学部に霊鳥類学者の京都大学名誉教授 河合雅雄氏、京都大学教授 山極寿一氏及び司会に武庫川女子大学教授 畑義文氏を招き、「自然と共生社会」では「生き物から人間の未来を考える」というテーマで意見を頂き対談をお願いした。

当日は、朝からの大雨にも拘らず予定を頂いていた155名の参加があった。重厚な中学部の礼拝堂を借りての講演会は、「里山は人と動物にとって重要な空間」と話される河合先生の内容にあった、ゆったりとした空間である。

記念事業を中心に1年を振り返ると、今でも汗した光景が浮かび、委員と多くのスタッフ及び参画いただいた会員により、創立10周年の一大イベントを終えることができた。感謝いたします。

実行委員会からの報告

「記念講演会」を終えて

澤 直

協会創立10周年を記念した3つの記念事業(「コンサート」、「ワークキャンプ」、「講演会」)は、それぞれ参加者からは記念事業に相応しいとの好評価を得、協会の存在意義とより一層の結束力を高めることができたものと思います。私は、「記念講演会」の実行委員を委ねられたが、以下にまとめを記しておきたい。

先ず、「テーマ」・「講師」・「日程」の選定について時間を要したが、協会の目的(「環境の尊重を視点にした『やさしい文化の創造』に寄与する」)に叶い唱導していただける催しとして、当代きっての霊長類学的世界的な研究者である河合雅俊、山際寿一の両先生をお迎えし、「自然と共生社会～生き物から人間社会の未来を考える」と題して、講演と対談で、語っていただくこととなった。

内容が高質・硬質のテーマであるので、広く一般特に若者、地元の人に呼びかける必要があると思い、近隣を念入りに広報活動した。西宮市役所、マスコミ支局、高校・大学(5校)などの関係者に直接接し、参加呼びかけや広報依頼をした。ちらしについては市施設の公民館、生涯学習センター、学校関係には留め置きしてもらえられた。今後とも、行事の際には、とりわけ会員の方による不断の地元広報が効果あるのではないかと思った。

「講演会」は冷え込んだ強い秋雨の降る日となった10月9日(土)、ヴォーリス設計の関西学院高等部講堂で開催したが、足元の悪い中、約150名の方の参加があった。

講演では、まず河合先生が、「里山」における人間と生き物の関係・共生について、次いで山際先生が、熱帯林での生き物の共生について話され、その後、畑儀文・理事の司会で両先生との対談をしていただいた。河合先生からは、近年クマなどが人里に出没して危害を与え、社会的な問題となっているが、この原因として、作物不作の影響もさることながら、里山を放置してきた産業構造の変化、とりわけ林業の至らなさについて厳しい指摘があった。里山は自然と人間生活の一体性がある場であり、自然との共生の生態である里山の保存・活用を強く提起された。「里山」からの人間性回復の可能性を深く認識しました。また、山際先生の話と映像の中で、熱帯林でのゴリラとフクロウの優しい対面は、普段予想だに出来ない珍しい瞬間を見たり、原住民と踊りを通じてコミュニケーションできるというフィールドワークならではの貴重な話を伺い、興味深く、楽しい興奮を感じました。会場から「(河合)先生にとっての『共生』とは何か」との質問があったが、「共生」には、片利共生、共利共生などがあるとのことで、山際先生は「利他心」に触れられた。つまりは、人間社会での共生とは「共利共生」ではないかと自問自答しました。司会の畑理事が河合先生と篠山の同郷のよしみで、和やかに進行されたが、対談の前に、今日のテーマに相応しい童謡「里の秋」を会場一杯に響く歌われたことは、我が協会ならではの1コマであった。

今後の協会のあり方を考える時、都市建築物や歴史的な町並み・建造物などへの関心とともに、「里山」をはじめ自然との共生についても、機会ある毎に取り組まなければならない大いなる課題であることを強く認識した講演会であった。



実行委員会からの報告

「神戸国際ワーキングホリデイ」を終えて

佐々木 孝子

いよいよ明日でワーキングホリデイが終わるという晩、私は清水理事長、順子さんといっしょに神戸女学院のケンウッド館のお台所でお茶をいただいていた。もう夜も更けたというのに、隣の部屋からは参加者の楽しそうな声が聞こえてきます。初日の、どことなくおずおずとした雰囲気か嘘のようです。知らない者どうしが同じ目的で一つの場に集い、いつのまにか言葉の壁さえ越えて笑いあえるようになる、この瞬間がワーキングホリデイのハイライトです。英国ナショナル・トラストを支えるボランティアワークを、アメニティ2000協会でも実施してみれば、と企画させていただいたイベントでしたが、もしかすると、その「瞬間」を生み出してみたかったのかもかもしれません。

神戸国際ワーキングホリデイは英国1名、台湾4名、韓国1名、日本3名の9名が参加し、9月1日から6日の5泊6日で行われました。創立10周年という大きな節目に、清水理事長がこの企画にゴーサインを出し、任せてくださったことに感謝しております。立案から催行まで、ボランティアでしかできないことと、ボランティアではできないことの両方を体験し、ほんとうに勉強になりました。私にとってよかったのは、1週間アメニティにどっぷりつかって、その理念や運営の仕方がわかったことです。活動をしている人たちは、みな文字通りの「達人」です。理事長の理念の下にお料理、企画、経理等々、何かを自力でやれるスキルやコネクションの持ち主が集まっているところに、協会の力の秘密があるのだと思いました。どの人も遊びの精神が旺盛で、それも大きな推進力になっているのですね。特に、ワーキングホリデイでのデビューを目指して、何か月もかけて石窯を作ったり、参加者が作業しやすいようにいねいに下準備をくださった増田さんと佐野さんには脱帽です。現場では、順子さんを中心にした同心円が、いつも魔法陣のようによい雰囲気を漂わせていました。お代わりのとまらない毎日の食事や、浴衣を着つける時の大騒ぎ、静謐と緊張の野点体験等々、すべてスタッフの人たちのお世話の賜物です。アメニティらしい、気合のはいった10周年の企画は、参加者のみなさんに喜んでいただけたようでした。各世代がうまく混ざっていたのも今回よかったことの一つです。参加者は19歳～40歳、アメニティ側はたいがい50歳以上で、場がいつも和やかに保たれていました。

ボランティアの力を結集できるワーキングホリデイは、農業振興や町づくりなど様々な可能性があり、エコ・ツーリズムの分野で早くから注目されています。でも、これを事業の柱とする団体があるほど大がかりなイベントのため、運営資金や、スタッフ・参加者の確保が難しい日本ではなかなか実践できないのが実情です。今後このような活動を続けることは難しいと思われませんが、ここで得たものを活かしていきたいと思っています。みなさま、ありがとうございました。



おしゃべリアラカルト

駒井家住宅のボランティア

西村 契衣子

駒井家住宅のボランティアを始めて、1年8ヶ月が経ちました。ヴォーリス建築のことは何も知らないままのスタートでしたが、駒井家の建物は私を優しく迎えてくれたような気がしました。

ボランティアの仕事は、受付、ガイド、電話番、セルフサービス用のお茶の用意と後片づけなどです。

お客様は全国からお見えになります。ヴォーリスファンの方、建築関係の方、そして通りがかりの方も来られます。一人旅の女性が多いのは駒井家の特徴ではないでしょうか。また、朝一番に来られる方はたいてい遠方からの方です。限られた時間を有効に使われるのですね。ガイドをするのは、なかなか慣れないでいますが、そんな私のつたない案内でも喜んで下さって、優しいお客様に支えられています。事実、駒井家訪問者は、なぜかいい方ばかりなんです。

庭のそうじもあります。竹ぼうきで落ち葉を集めるのですが、なにせ広いお庭です。ほうきの扱ひも自然とダイナミックになります。収穫した大量の落ち葉は、何年か寝かせると最高の腐葉土になるんです。寒い日の庭そうじは体中ポカポカになり、一石三鳥です。

台所も紹介させて下さい。白で統一された大きな台所で、流しに立つと窓から庭が見渡せ、季節ごとの美しさを満喫できます。昭和2年築なのに、東向きで明るく機能的な台所。この辺りで、ヴォーリスさんはレディファーストの方なのだなあ、といつも感心します。

大切にされてきた、すばらしい建物と美しい庭でのボランティア。すれ違ったお客様に、こんにちわって言うだけでも、スタッフのひとりとしてお迎えできたなあと思える瞬間です。

駒井家で一緒にしたアメニティの方々、また日本ナショナルトラストの皆さん。ボランティアを通じての新しい出会いに感謝します。参加できる時だけ行くというお気楽ボランティアですが、これからも長く続けていきたいと思っています。



ワーキングホリデースタッフ体験記

金井 直世

暑さに弱い私が入会すれば山荘に泊まれるという少し不純な動機で入会して2年目を迎えます。

近くに居ながら殆んどスタッフに入らず、もっぱら利用するばかりなのが少し後ろめたく今年のワーキングホリデーに3日間厨房スタッフとしてお手伝いさせて頂きました。

10時頃から夕方まで20名近くの食事準備で殆ど立ちっぱなしの3日間でした。私は通いでしたが他のスタッフは泊りこみで大変だったと思います。なかでもホステスの清水順子さんのマネジメントの大変さ、厨房スタッフのいない間の食事の準備、後片付けを殆ど一人でされている目まぐるしさにはワーキングホリデーが済んだら倒れられるのではないかと心配になる程でした。いつもながらですが、清水順子さん抜きでは実務運営は進まないと実感しました。

建築家としてのヴォーリスは昔から知っていました。関学や神戸女学院には出入りしますがその空間（特に住居）でゆっくり過ごすことはありませんでした。山荘で無為の時間を過ごすにつけ「心地よい空間で成長する。それがどれ程その人間形成に影響を及ぼすか」という事に思いが至ります。協会の催しに若い人達が参加して山荘で流れる時間味わってほしいものです。そして自分達の生活空間を振り返ってみる種が播かれたら素晴らしいと思います。

若い人達のエネルギーを目のあたりにし、我々同世代の集まりだけでは広がらない世界を知る楽しさはワーキングホリデーのお手伝いのご褒美でした。



予告2

天神崎を中心に和歌山を訪ねる～一泊による町並み研究会

<会員限定>

春の町並み研究会は和歌山方面を訪れます。日本のナショナル・トラスト運動の草分けである天神崎をはじめ、重要伝統的建築物群である湯浅、漆器の町黒江など「紀の国」の文化や自然に触れる旅です。全コース貸切の中型バスでの移動です。温泉宿でゆっくりと一泊して、春の紀州を楽しみましょう。

月日：2011年3月18日（金）～19日（土）

集合：18日午前8時半（阪急西宮北口）9時半（難波）

解散：19日午後6時（難波）午後7時（阪急西宮北口）

訪問先：漆器の町黒江、醤油の町湯浅、天神崎ナショナル・トラスト、南方熊楠記念館

宿泊：白浜・梅樽のホテルシーモア

参加費：27,000円（昼食代は別途各自負担、会員に限ります）

定員：25名

*詳しくは同封の案内チラシをごらんください。

六甲山荘だより

12月2日業者や関電もたちあって水抜きをしました。いよいよ冬ごもりです。休業中は修繕などの作業をします。寒い日でも体を動かしていると気持ちがいいですし、みんなで炬燵をかこんでいただく暖かい昼ごはんはごちそうです。あなたも一緒にいかがですか。1月の作業予定日は次の通りです。

1月15日(土) 29日(土)

作業に参加して下さる方3～4名、昼食の用意をして下さる方1～2名 を募集しています。おいでになれる方はご連絡ください。お待ちしております。

*佐野宣治さんによる「石窯製作苦心談」

ワーキングホリデーでのピザは、生地作りの名人スタッフ達とトニーと言うピザ焼き職人により最高の焼き上がりであった。ピザの昼食は、KIWHの企画段階で組み込まれており、誰が石窯を作るのかが問題で、皆が顔を見合わせていたものだ。

やっと5月に作業に取り掛かり、時間を都合しながら3人のスタッフで石窯の基礎作り。鉄筋を入れ基礎を固める。コンクリートブロック積みは1日1段、そして乾燥。繰り返して積み重ね、4段目完了は、7月30日。

此のころからKIWHに間に合うのかという心配が起こり始める。8月に入り、ドーム作りに取り掛かる。8月25日、ドーム3段目まで耐火ブロック積み完了。8月27日、ドーム4段目完了。8月28日、上部円形部分完了で石窯が完成。8月30日、構想をまとめた人と2人で試験の火入れ。かろうじてKIWHに間に合った。嬉しかった。8月は、六甲山荘に通い詰めで、本当に下界の暑さを知らない私です。

駒井家住宅ニュース

12月の駒井家住宅

12月11日(土)で今年の公開は終了しました。12月は4日間でしたが、東京など遠方からのお客さまもあり、来場者総数は98名でした。また4日にはスタッフの忘年会としてたこ焼きパーティーをしました。温室でおしゃべりしながら楽しい一時をすごしました。スタッフの皆さん、お疲れ様でした。また今年もがんばりましょう!

私たちの手でヴォーリス六甲山荘を育てましょう!

ヴォーリス六甲山荘募金報告(目標金額2000万円)

11月の募金状況 26,620円<累計8,808,598円(602名から1,567口)>
会員5,000円(1名から1口)<累計4,567,270円(409名から910口)>
一般5,000円 <累計3,323,745円(198名から662口)>
一般団体 0円<累計81,000円(5団体から16口)>
その他 16,620円<累計831,883円>

振込口座・郵便局 00950-5-36168 アメニティ2000協会